

画 信 录 附

2007年度

讲 义 计 画

桃山学院大学

画

計

義

講

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聞き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ〔第2版〕』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聞き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

【参考文献】

谷岡一郎『「社会調査」のウン リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書
赤川学『子どもが減って何が悪いか!』ちくま新書

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例にもとづきながら、その基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較をとおして社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へとむかう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

毎回の課題の達成状況（小テスト・小レポートなど）と、期末試験の結果を総合して評価する。平常点6割+期末試験4割。

【教科書】

・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

- ・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』（新曜社）
- ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』（文春新書）
- ・宮内泰介『自分で調べる技術』（岩波アクティブ新書）
- ・森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』（日本評論社）

※ほか、適宜指示する。

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例にもとづきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 谷岡一郎『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書
- 赤川学『子どもが減って何が悪いか!』ちくま新書

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	岩 田 考

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 1 社会調査の企画・設計
- 2 社会調査の実施方法
- 3 問題意識の絞り込み
- 4 仮説の検討
- 5 質問文の作成
- 6 調査票の完成
- 7 サンプリングの方法
- 8 調査の実施手順
- 9 調査票の配布と回収
- 10 調査データの整理
- 11 データ集計の基礎
- 12 統計的検定と仮説の検証
- 13 分析結果の発表
- 14 発表へのコメント
- 15 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況、共同作業への取り組み、プレゼンテーション、学期末レポートの内容などを総合して評価します。

【教科書】

大谷信介ほか編著 1999 『社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房

【参考文献】

ボーンシュテット・ノーキ 1990 『社会統計学』 ハーベスト社
 森岡清志編著 1998 『ガイドブック社会調査』 日本評論社
 内藤統也監修 2005 『文系のためのSPSS超入門』 プレアデス出版
 酒井麻衣子 2001 『SPSS完全活用法—データの入力と加工』 東京図書
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ〔第2版〕』 ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 1 社会調査の企画・設計
- 2 社会調査の実施方法
- 3 問題意識の絞り込み
- 4 仮説の検討
- 5 質問文の作成
- 6 調査票の完成
- 7 サンプリングの方法
- 8 調査の実施手順
- 9 調査票の配布と回収
- 10 調査データの整理
- 11 データ集計の基礎
- 12 統計的検定と仮説の検証
- 13 分析結果の発表
- 14 発表へのコメント
- 15 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容および筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については最初の授業で説明する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心にもとづいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 1 社会調査の企画・設計
- 2 社会調査の実施方法
- 3 問題意識の絞り込み
- 4 仮説の検討
- 5 質問文の作成
- 6 調査票の完成
- 7 サンプリングの方法
- 8 調査の実施手順
- 9 調査票の配布と回収
- 10 調査データの整理
- 11 データ集計の基礎
- 12 統計的検定と仮説の検証
- 13 分析結果の発表
- 14 発表へのコメント
- 15 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

毎回の課題の達成状況（小テスト・小レポートなど）と、期末試験の結果を総合して評価する。平常点6割＋期末試験4割。

【教科書】

・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
※社会調査Aと共通。

【参考文献】

- ・ザイゼン『数字で語る』（新曜社）
 - ・ブードン『社会学の方法』（文庫クセジュ）
 - ・太郎丸博編『フリーターとニートの社会学』（世界思想社）
 - ・『桃山学院大学社会調査実習報告書』
- ※ほか、適宜指示する。

科 目 名

社会調査実習 I

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	竹中英紀

【講義概要・学習目標】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、とくに統計解析の諸技法の習得をめざす。授業では、(1) 過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討をとおして、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2) 「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS) を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析の諸技法を使いこなせるようになることをめざす。また、秋学期の「社会調査実習II」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持つこと、学期末には調査計画書を提出することを義務づける。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【講義計画】

- 1 実習の計画 (必要な場合は実習生のグループ分け)
- 2 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 3 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 4 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方 (単純集計・度数分布)
- 5 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方 (代表値・平均値・分散)
- 6 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方 (クロス集計・比率の差)
- 7 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (クラマー係数、ファイ係数)
- 8 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (ピアソン係数、ケンドール係数)
- 9 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 10 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析法
- 11 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎 (重回帰分析)
- 12 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎 (因子分析、主成分分析)
- 13 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ (重回帰、ロジット回帰)
- 14 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ (数量化理論)
- 15 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 16 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 17 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 18 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 19 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 20 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 21 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 22 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 23 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 24 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 25 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 26 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 27 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際 (重回帰分析)
- 28 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際 (因子分析、主成分分析)
- 29 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 30 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加 (毎回の出席は最低条件) と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期末提出の調査計画書 (4000字程度) によって評価する。

【教科書】

・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)

※社会調査A・Bと共通。

・太郎丸博編『フリーターとニートの社会学』(世界思想社) ※新規に購入すること。

【参考文献】

・野沢慎司編・監訳『リーディングス ネットワーク論』(勁草書房)
 ・森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』(日本評論社)
 ※ほか、適宜指示する。

科 目 名			
社会調査実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	脇 穂 積

【講義概要・学習目標】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析所技法の習得をめざす。授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習Ⅱ」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。

【講義計画】

- 1 実習の計画 (必要な場合は実習生のグループ分け)
- 2 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 3 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 4 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方 (単純集計・度数分布)
- 5 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方 (代表値・平均値・分散)
- 6 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方 (クロス集計・比率の差)
- 7 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (クラマー係数、ファイ係数)
- 8 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (ピアソン係数、ケンダール係数)
- 9 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 10 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析法
- 11 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎 (重回帰分析)
- 12 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎 (因子分析、主成分分析)
- 13 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ (重回帰、ロジット回帰)
- 14 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ (数量化理論)
- 15 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 16 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 17 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 18 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 19 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 20 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 21 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 22 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 23 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 24 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 25 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 26 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 27 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際 (重回帰分析)
- 28 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際 (因子分析、主成分分析)
- 29 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 30 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加 (毎回の出席は最低条件) と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期提出の調査計画書 (4000字程度) によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

大谷信介編『これでいいのか市民意識調査』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に開講されるものである。授業では、「実習Ⅰ」で提出された調査計画書にもとづき、実際に調査票を作成し、データを収集し、その分析結果を報告書にまとめる。調査は、1994年度より実施している「大学生の生活と意識に関する調査」を継続して実施するが、今年度はとくに「大学生の社会的ネットワークとライフスタイル」を共通テーマとした。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。とくに「実習Ⅱ」では、8000字以上の調査報告レポートの提出が必須である。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

少人数の演習形式によって、基本的には、つぎのような段階を踏んでいく。

- 1 問題意識と仮説の絞り込み
- 2 質問文・調査票の作成
- 3 調査票の配布と回収
- 4 データの整理・集計・分析
- 5 分析結果のプレゼンテーション
- 6 報告書の執筆・編集

【成績評価の方法】

毎回の出席 (金曜1・2限) と課題の達成 (小レポート、発表など)、議論への参加、および学期末の調査報告レポート (8000字以上) の提出が、単位認定のための必須条件である。レポート評価のポイントは、(1)問題の構成や仮説検証の手続きが妥当であること、(2)SPSSおよびエクセルを使いこなしていること、(3)分析結果の解釈が妥当であることなど、とする。また、実査は参加学生全員でおこなうので、リーダーシップとチームワークも成績評価の重要な要素となる。

【教科書】

・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)
※社会調査A・B、社会調査実習Ⅰと共通。

【参考文献】

・野沢慎司編・監訳『リーディングス ネットワーク論』(勁草書房)
・森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』(日本評論社)
※ほか、適宜指示する。

科 目 名			
社会調査実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	脇 穂 積

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

少人数の演習形式によって、基本的には(1)問題意識と仮説の絞り込み、(2)質問文・調査票の作成、(3)調査票の配布と回収、(4)データの整理・集計・分析、(5)分析結果のプレゼンテーション、(6)報告書の執筆という段階をおっていくことになる。「社会調査実習Ⅰ」との継続科目なので、各自の調査計画を出来る限り尊重するが、実査は参加学生全体でおこなう。そのため調査実施のためのチームワークも重要な評価ポイントとなる。調査のテーマは、1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。具体的には、調査票を用い、主として大学生の「携帯電話やメールのマナーに関する意識」や「友人関係」等を計量的に分析する。調査対象者としては、本学学生が主となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の父兄なども対象に加えることも検討している。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、調査報告レポート（8000字以上）によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

大谷信介編『これでいいのか市民意識調査』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査特講－質的調査法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

今年度の講義では、質的調査法の種類と実例、特に聞き取り調査の技法、参与観察法とドキュメント分析法を中心に、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について学ぶ。調査の企画、調査技法の選定と調査項目の設定、調査の実施、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノートの書き方、報告書の作成など調査方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

この授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。なお授業では、受講生個人を単位に、あるいは小グループを編成して、調査の実施とそのデータ分析に取り込む方法をとる。したがって授業への出席のみならず、授業時間外にも調査作業や、グループの連携性・協調性が不可欠の必要条件である。

【講義計画】

1. 質的調査法に関する概説
2. 聞き取り調査とその特徴
3. 聞き取り調査の技法
4. 聞き取り調査のデータ分析
5. インタビュー法
6. ライフヒストリーの分析
7. フィールドワークの技法
8. 参与観察法とは
9. 参与観察法の進め方
10. 参与観察法のデータ収集と分析
11. さまざまなドキュメント分析
12. ドキュメント分析の調査企画
13. ドキュメント分析の技法
14. ドキュメント分析のデータ収集と分析
15. 事例研究

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の態度及びレポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査特講－統計解析法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	脇 穂 積

【講義概要・学習目標】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 1 基礎統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 4 統計的推定とサンプリング理論
- 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 14 量的変数と量的変数との関連③（第3変数の導入、偏相関係数）
- 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

学期末試験80%、小テスト10%、授業態度10%（授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

【教科書】

特に指定しない

科 目 名			
社会調査特講－統計解析法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 1 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 4 統計的推定とサンプリング理論
- 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 14 量的変数と量的変数との関連③（第3変数の導入、偏相関係数）
- 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

学期末試験80%、小テスト10%、授業態度10%（授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

【教科書】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
 得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
 芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
 原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
 ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

科 目 名			
社会病理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	島 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

社会病理学を臨床社会学として展開する。臨床社会学は、社会病理学が固有に内在させてきた問題意識を、介入プロセスを視野に入れた社会学の行為として特化させた領域である。社会病理現象を臨床社会的アプローチによって問題解決を志向する方法を学習する。

臨床社会学の特徴の第一は、介入プロセスの採用にある。第二は、生物学的・心理学的・社会的アプローチの相互作用である。第三は、ミクロ・メゾ・マクロ水準の相互作用である。第二と第三の相互作用のなかで、病理現象の全体像を析出し、問題解決のための見取り図を描き、実際の介入によって、問題を解決していく営為が、臨床社会学の方法である。本講義では、ミクロ・メゾ水準の社会病理現象を素材に取上げ、臨床社会的アプローチの実際を学習する。

【講義計画】

1. 社会病理学への臨床社会学の貢献
2. 富裕化社会の社会病理現象
3. 臨床社会学の歴史
4. 臨床社会学の方法
5. 摂食障害
6. アルコール問題
7. 子ども虐待
8. 老人虐待
9. 犯罪
10. 臨床社会学とフィールド研
11. 専門性の問題
12. 隣接科学と臨床社会学

【成績評価の方法】

試験

【教科書】

島中宗一・清水新二・広瀬卓爾編『社会病理学講座第4巻 社会病理学と臨床社会学：臨床と社会学的研究のブリッジング』学文社 2004

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業への参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に提示する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業への参加状況・課題レポートなどにより総合的に評価する

【教科書】

北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編 ソーシャルワーク演習（上） 有斐閣

【参考文献】

岩間伸之 援助を深める事例研究の方法 ミネルヴァ書房
他、授業時に紹介する

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・取り組みの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業中に提示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	大 垣 芳 美

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席と課題への取り組み態度を重視。途中1～2回の提出物あり参考にする。

【教科書】

適宜紹介

【参考文献】

「精神保健福祉援助技術演習」相川書房
「新社会福祉援助技術演習」
「対人援助ワークブック」その他事例集など

【備考】

ビデオ、カセットレコーダーを利用する

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導並びに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導並びに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎』ミネルヴァ書房、2003年。
- ②対人援助実践研究会HEART『対人援助ワークブック』久美株式会社、2003年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

評価は総合的に行う予定だが、演習の性質上、出席と参加態度は特に重視する。

【教科書】

必要に応じて、プリント等資料を配布する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

【備考】

必要に応じてグループを編成する。グループでの学習や討議がスムーズに進むように各参加者が協力しあうこと。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	新 崎 国 広

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

演習科目であるので、出席日数（60%）と出席態度（40%）を重視する。規定出席日数に達しないものは不可。本講は、受講生と共に創っていきたいと考えている。主体的で積極的な参加を期待する。

【教科書】

『77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック』 Heart実践研究会 久美出版

その他、適宜資料を印刷し配布する。

【参考文献】

『社会福祉施設ボランティアコーディネーションのめざすもの』 新崎国広編著 久美出版

『対人援助の本』 岡田誠編著 久美出版

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	大 垣 芳 美

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席と課題への取り組み態度を重視する。1～2回の提出物あり参考にする。

【教科書】

適宜紹介する

【参考文献】

- 「精神保健福祉援助演習」岩間文雄他共著 相川書房
「高齢者援助における相談面接の理論と実際」渡部律子著 医師薬出版KK
「価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習」川村隆彦著 中央法規
「新社会福祉援助技術演習」その他事例集

【備考】

ビデオ利用の予定

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、レポート等による総合評価。
出席重視。

【教科書】

対人援助実践研究会HEART編
77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」

科 目 名

社会福祉援助技術演習Ⅱ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期集中	4単位	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【教科書】

授業初回に指示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名

社会福祉援助技術演習Ⅱ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4単位	川 東 光子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	春学期集中	4単位	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況および演習への参加態度（課題の趣旨を理解し、グループの場合では分担協力の上、積極的に取り組んでいるか）、レポート内容により評価する。

【参考文献】

諏訪茂樹「対人援助とコミュニケーション」中央法規 2001
社会福祉教育方法・教材開発委員会「新 社会福祉援助技術演習」2001 等

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	春学期集中	4単位	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①倉石哲也『ワークブック社会福祉援助技術演習③家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ②岩間伸之『ワークブック社会福祉援助技術演習④グループワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ③筒井のり子『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

科 目 名

社会福祉援助技術演習Ⅱ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	春学期集中	4単位	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

集積と授業中の態度、提出物

【教科書】

特になし

科 目 名

社会福祉援助技術演習A

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	新 崎 国 広

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

演習科目であるので、出席日数（60％）と出席態度（40％）を重視する。規定出席日数に達しないものは不可。本講は、受講生と共に創っていきたいと考えている。主体的で積極的な参加を期待する。

【教科書】

『77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック』 Heart実践研究会
久美出版
その他、適宜資料を印刷し配布する。

【参考文献】

『社会福祉施設ボランティアコーディネーションのめざすもの』
新崎国広編著 久美出版
『対人援助の本』岡田誠編著 久美出版

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	大 垣 芳 美

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席と課題への取り組み態度を重視する。提出物を参考にする。

【教科書】

適宜紹介する

【参考文献】

- 「77のワークで学ぶ対人援助ワークブック」久美出版
「ラーニング バイ ラーニング」エルビス社
「新社会福祉援助技術演習」中央法規

【備考】

ビデオとカセットテープレコーダーを利用の予定

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席重視します。
出席とレポート等の総合評価

【教科書】

対人援助実践研究会HEART編
77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」久美出版

科 目 名

社会福祉援助技術演習A

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4単位	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【教科書】

授業初回に指示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名

社会福祉援助技術演習A

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期集中	4単位	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況及び演習参加状況 レポート提出状況

【教科書】

指定なし

【参考文献】

- ・77のワークを学ぶ 対人援助ワークブック 久美書房
- ・社会福祉小六法 ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	秋学期集中	4単位	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況および演習への参加態度（課題の趣旨を理解し、グループの場合では分担協力の上、積極的に取り組んでいるか）、レポート内容により評価する。

【参考文献】

対人援助実践研究会HEART「77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック」久美株式会社 2003
山田容「ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎」ミネルヴァ書房 2003 等

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	秋学期集中	4単位	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎』ミネルヴァ書房、2003年。
- ②対人援助実践研究会HEART『対人援助ワークブック』久美株式会社、2003年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

科 目 名

社会福祉援助技術演習A

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	秋学期集中	4単位	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、授業への参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に提示する。

科 目 名

社会福祉援助技術現場実習 I

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	石 田 易 司
02	通期	2単位	伊 藤 高 章
03	通期	2単位	郭 麗 月
04	通期	2単位	川 井 太加子
05	通期	2単位	黒 田 隆 之
06	通期	2単位	坪 山 孝
07	通期	2単位	松 端 克 文子
08	通期	2単位	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
- 4 現場体験学習
- 5 見学実習
- 6 見学実習記録に基づくレポートの作成
- 7 全体総括

【成績評価の方法】

出席重視
レポートなどで総合的に評価

【教科書】

授業時、指定する

【参考文献】

随時、紹介する

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	黒 田 隆 之
02	通期	2単位	安 原 佳 子
03	通期	2単位	森 野 靖 久
04	通期	2単位	大 田 洋
05	通期	2単位	塩 田 祥 子
06	通期	2単位	荒 川 輝 男
07	通期	2単位	長 谷 和 弘
08	通期	2単位	岸 本 義 昭
09	通期	2単位	高 山 英 治

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	安 原 佳 子
02	通期	2単位	松 端 克 文
03	通期	2単位	川 井 太 加 子
04	通期	2単位	金 澤 ますみ
05	通期	2単位	塩 田 祥 子
06	通期	2単位	村 田 智 美
07	通期	2単位	川 東 光 子
08	通期	2単位	藤 田 満
09	通期	2単位	佐 竹 紀 美 子
10	通期	2単位	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名

社会福祉援助技術現場実習Ⅳ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	川 井 太加子

【講義概要・学習目標】

- 1、保健医療の領域におけるソーシャルワークの現状を把握する。
- 2、各医療機関の機能や業務を理解する。
- 3、必要な社会資源について、その枠組みを理解する。
- 4、ソーシャルワークの価値や倫理について具体的に考察する。
- 5、ソーシャルワークの意義や役割について実習体験を基に理解する。
- 6、対象領域別に必要な知識を整理し、把握する。
- 7、チーム医療のあり方について学習する。

【講義計画】

【実習前課題】

- 1、実習目標の明確化。
- 2、言葉遣いなどのマナーを習得する。
- 3、医療機関の機能や特徴を理解する。
- 4、基本的な医療保険、所得保障制度を理解する。

【実習後課題】

- 1、実習体験の報告に基づき、クラス討論を実施する。
- 2、実習記録の書き方を学ぶ。
- 3、実習記録を基に、必要な情報やアセスメント等ソーシャルワークの視点を確認する。
- 4、学習目標に沿って各自の学習を深め整理する。
- 5、実習報告会に向けての準備を行う。

【成績評価の方法】

実習機関での評価、授業への参加度、理解度等を総合的に評価します。

【教科書】

日本医療ソーシャルワーク研究会編「介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック」医学書院

【参考文献】

適宜授業で紹介します。

科 目 名

社会福祉援助技術論Ⅰ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	-	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。
1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
 2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
 3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
 4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
 5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
 6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

【講義計画】

1. 社会福祉サービスと援助活動の関係
2. 福祉専門職と専門援助技術の関係
3. 専門援助技術の歴史的展開
4. 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
 - 3) 社会福祉援助活動の展開過程
 - ①援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - ②援助計画の作成
 - ③援助活動の実施
 - ④援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - ①契約・介入・課題の意義と方法
 - ②面接の意義と方法
 - ③記録の意義と方法
 - ④評価の意義と方法
 - ⑤専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
 - ⑥個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
5. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - ①個別援助技術（ケースワーク）
 - ②集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - ①地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - ニ 社会活動法
 - ②社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - ③社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7. 専門援助技術と倫理
8. 専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

評価は、客観テストや小レポートなどを含め総合的に行うが、出席と参加態度は重視する。主体的な取り組みの姿勢は、高く評価する。

【教科書】

基本的には、担当者が講義資料を作成する。
サブテキスト 伊藤淑子著『社会福祉援助技術とは何か』一橋出版

【参考文献】

そのつど紹介する。

黒木保博他編著『福祉キーワードシリーズ ソーシャルワーク』中央法規
太田義弘他編著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館 など

【備考】

ソーシャルワーク実践論の基盤となる科目である。予習・復習など必要な学習を行い、講義の内容を自らのものとして理解するようにこころがけること。

科 目 名

社会福祉援助技術論Ⅱ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	8単位	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- 1, 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について、最新の情報を入れながら具体的方法論を学ぶ。
- 2, 社会福祉調査法、社会福祉計画、社会福祉運営管理、社会活動法、ケアマネジメント、スーパービジョン等の技術論、方法論について詳しく学習し、実践に役立つ知識、技術を身につける。
- 3, 具体的事例を多くこなすことにより、実践感覚を身につける。

【講義計画】

- 1, 社会福祉援助技術の意義と機能
- 2, 社会福祉援助技術の実践領域と適応領域
- 3, 個別援助技術の展開過程
- 4, 集団援助技術の展開過程
- 5, 地域援助技術の援助原則と具体的展開
- 6, 社会福祉調査法の理論と技術
- 7, 社会福祉計画の理論と技術
- 8, 社会福祉の運営管理
- 9, 社会活動法の理論と技術
- 10, ケアマネジメントの目的と概念
- 11, ケアマネジメントの構成要素と過程
- 12, スーパービジョン
- 13, 効果測定と評価

【成績評価の方法】

評価は、客観テストや小レポートなどを含め総合的に行うが、出席と参加態度は重視する。主体的な取り組みの姿勢は、高く評価する。

【教科書】

基本的には、担当者が講義資料を作成する。
サブテキスト 伊藤淑子著『社会福祉援助技術とは何か』一橋出版

【参考文献】

そのつど紹介する。
黒木保博他編著『福祉キーワードシリーズ ソーシャルワーク』中央法規
太田義弘他編著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館 など

【備考】

ソーシャルワーク実践論の基盤となる科目である。予習・復習など必要な学習を行い、講義の内容を自らのものとして理解するようにこころがけること。

科 目 名			
社会福祉計画論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	福 田 公 教

【講義概要・学習目標】

本講では、日本における福祉計画の変遷と近年の動向および計画策定から評価までの一連の流れを概観する。

社会福祉の分野では、2000年の社会福祉法の成立により、法的にも本格的に「地域福祉の推進」が指向されることとなった。つまり、市町村が地域福祉計画、都道府県が地域福祉支援計画を策定することとなった。この状況をふまえて、本講では、地域福祉計画、地域福祉支援計画が生まれてくる社会的背景を明らかにするとともに、この計画の概要、策定方法、他計画との関係、評価、財政やローカル・ガバナンスとの関係を明らかにすることを目的としている。

社会計画のうち地域福祉計画では、単なる資源の量的拡大だけを目的とするのではなく、その有効活用や地域におけるネットワークへの視点が必要となる。したがって、本講では、ソーシャルワーカーにとっての社会計画という観点からコミュニティーワークの観点もふまえ分析・検討する。

【講義計画】

1. 戦後の日本の社会政策・制度の概観
2. 少子高齢社会の抱える課題の分析
3. 社会福祉計画の概要
4. 福祉3プランおよび民間計画の概要
5. 社会福祉計画と関連計画
6. 社会福祉計画におけるニーズと資源
7. 社会福祉計画の策定プロセス
8. ソーシャルワーカーと計画
9. 住民参加の技法
10. コミュニティ・ミーティング
11. 社会福祉計画における評価
12. 社会福祉計画と財政
13. ガバナンス時代の社会福祉
14. 学生による課題発表

【成績評価の方法】

出席、レポートおよび試験の総合評価とする。

【教科書】

プリント等を配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉行財政論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 田 幹 男

【講義概要・学習目標】

- ①社会福祉行財政の基本的な仕組み、歴史的変遷、今日的課題等について、その概要を理解する。
- ②地方自治体における社会福祉行財政を、講師が体験した具体例を紹介し実態的な理解を深める。
- ③社会福祉の主要な分野における各制度の現状と課題について理解する。また、その持続可能性等について、負担のあり方やニーズ適合性などの視点から分析し考察する。

【講義計画】

- ①具体的な行財政実例を紹介し、その全体像を認識する。
- ②社会福祉行財政の制度と今日的課題について考える。
- ③社会福祉制度の歴史的変遷を概観する。
- ④「社会福祉基礎構造改革」を考える。
- ⑤介護保険制度の現状と課題を考える。
- ⑥障害者自立支援制度の現状と課題を考える。
- ⑦生活保護制度の現状と課題を考える。
- ⑧その他

【成績評価の方法】

出席と試験で総合的に評価する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 専門性と専門職の内容
 - 2) 職業観及び勤労観
 - 3) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 4) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
- 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 社会保障制度
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

期末試験により評価するが、出席点も加味される。

【教科書】

山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』（第4版）ミネルヴァ書房

【参考文献】

社会福祉士養成講座1『社会福祉原論』（第4版）中央法規
松本眞一編著『現代社会福祉論』（改訂版）ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会福祉施設経営論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

社会福祉施設は、社会福祉基礎構造改革以後、自立と自己責任が求められるようになった。一方、介護報酬や支援費等によって経営することになった。

社会福祉施設の経営についてサービス、人事・財務・労務などの諸管理について講義して、総合的に社会福祉施設の経営を学習したい。新しい課題である自己決定や自立支援による利用者本位のサービス、リスクマネジメントや苦情対応、介護サービス情報の公表等についても講義する。

【講義計画】

- 1 社会福祉施設と社会福祉法人制度
- 2 利用者のニーズとサービス管理
- 3 社会福祉施設の組織・人事管理
- 4 社会福祉施設の財務管理
- 5 社会福祉施設と地域社会
- 6 社会福祉施設の建物・設備管理

【成績評価の方法】

学期末の試験による

【教科書】

用いない。
適宜資料を配布し、紹介する

【参考文献】

社会福祉施設運営（経営）論
社会福祉学習双書 全国社会福祉協議会

科 目 名			
社会福祉施設サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

本講は社会福祉施設での支援論あるいはサービス論である。今日、日本の社会福祉従事者は140万人を超えているが、その7割以上が社会福祉施設の職員である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

日本では、今日でも社会福祉施設が重要な位置を占めているにもかかわらず、社会福祉施設の職員が（大学で学んだ知識や技術を活かして）ソーシャルワークの実践をしていくという観点から整理され、体系化された理論や方法はほとんどない。また、地域福祉の重要性が指摘されているにもかかわらず、社会福祉施設と地域福祉との関係が積極的に論じられることもほとんどない状況である。

そこで本講では、介護保険法改正や障害者自立支援法の内容を分析した上で、ソーシャルワーク実践の場としてのこれからの社会福祉施設での支援・サービスの方向を地域福祉の観点もふまえて明らかにしていく。

【講義計画】

1. 社会福祉施設の概要—歴史、制度体系と種別、利用者数など
2. 社会福祉施設サービス・運営の仕組みと課題
3. ノーマライゼーションの思想と脱施設化
4. 介護保険制度改正と社会福祉施設
5. 障害者自立支援法と社会福祉施設
6. 社会福祉施設と地域福祉
7. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践
8. ケアプラン、個別支援計画の考え方と書き方
9. 社会福祉施設のサービス評価、苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動
10. 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【教科書】

松端克文『障害者の個別支援計画の考え方・書き方』日総研、2004。

【参考文献】

講義中に紹介する。

科 目 名			
社会福祉特講—マスコミから見た福祉課題			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

本講は、読売新聞社によって提供されるものである。

今日の社会保障・社会福祉は、少子高齢社会の到来や経済政策によって格差が顕著になるなど大きな県各期を迎えている。それだけに各種の制度改革の動向や内容、福祉課題を把握することは極めて重要である。

本講では、読売新聞社の編集委員の方を中心に、現場の記者や論説委員、医療情報部長、社会保障部長など、日ごろから取材し、執筆しておられる方々をお招きして、年金や医療、介護保険、子育て支援などの社会保障や社会福祉に関する最新の情報をさまざまな観点から講義していただく。

現実に社会で生じている事象をおさえながら、これからの社会や福祉のあり方を考える講義であるから、福祉領域で専門職として働くことを目指している学生諸君、またマスコミを希望する学生職員の受講を歓迎する。

【講義計画】

- 1 ホームレスと生活保護
- 2 少子高齢社会と年金改革
- 3 介護保険制度
- 4 女性と雇用
- 5 子育て支援
- 6 ヨーロッパの社会保障
- 7 医療サービスの今後
- 8 NPOとNGO
- 9 緩和医療
- 10 犯罪と高齢者・子供
- 11 精神医療と福祉
- 12 日本の高齢化 など

ただし、講師の都合で一部変更になることがある

【成績評価の方法】

出席と試験による

【教科書】

用いない

【備考】

インテグレーション科目であるから、講師の都合で一部変更になることがあるが、学期初めのオリエンテーションで連絡する

科 目 名			
社会福祉発達史 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	木 村 和 世

【講義概要・学習目標】

明治後期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。福祉史を身近なものとして把握するために、南河内地方の農村や新聞記者の目を通した大阪の町の変遷や路地裏に生きる人々の生活を見ていく。福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養ってほしい。

【講義計画】

1. 明治期の恤救規則と南河内の村々
2. 社会問題の発生と社会事業
3. 大正期—都市リベラリズムの光と影
4. 大阪毎日新聞記者 村嶋歸之と大阪
5. 社会事業から厚生事業へ
6. 1945年・大阪
7. 戦後の社会福祉の展開

【成績評価の方法】

出席を重視する

テスト、レポートについては講義時に指示する

【教科書】

- ・木村和世『路地裏の近代史』（昭和堂）（予定）
- ・プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】

芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』

藤原彰・栗屋憲太郎・吉田裕 編『昭和20年 1945年』

科 目 名			
社会福祉法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	赤 井 朱 美

【講義概要・学習目標】

社会福祉の社会的価値を法的側面から検証し、各法が保障する権利と手続きについて理解を深め、国民個々に提供される福祉サービスの根拠となる法の存在について講義する。さらに身近な高齢者、障害者を対象にして、個人的具体的ニーズを理解して法の運用の実際を検証し、援助者として積極的にアドボカシーの支援が行えるような法的知識と福祉理念を持てるように促す。

【講義計画】

1. 社会福祉と社会保障の意義（広義と狭義）
2. わが国における社会保障・社会福祉立法の形成と展開
3. 三法体制から六法体制、福祉八法体制へ
4. 低所得者に対する福祉—生活保護法の基本原理と保護の原則
5. 社会福祉の財政に関する法
6. 福祉サービスの種類と対象範囲
7. 老人福祉法
8. 介護保険法
9. 児童福祉法
10. 障害者に関する法律（身体・知的・精神）
11. 障害者自立支援法
12. 社会保険と法
13. 医療保険と法
14. 年金と法
15. 社会福祉の枠組みに関する法—社会福祉法—

【成績評価の方法】

期末試験による素点評価

【教科書】

有斐閣アルマ『社会保障法』

【備考】

法制度の解説であるため、事例・判例を多く取り上げる予定である。授業では毎回資料を配布する。参考になる書物については適宜授業内で紹介する。原則として出席点は加算しないが、履修状況を把握するために不定期に出席を確認することがある。

科 目 名

社会保障論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	赤 井 朱 美

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
- 2 社会保障制度の体系について理解させる。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。
- 4 日本の年金保険について熟知させる。
- 5 日本の医療保険について熟知させる。
- 6 日本の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
- 7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険（雇用保険）
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度
- 4 日本の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
- 5 日本の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 6 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 7 社会保障の実施体制及び専門職

【成績評価の方法】

期末試験による素点評価

【教科書】

社会福祉士養成テキストブック9「社会保障」ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜、授業でハンドアウトを配布します。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、SW生対象外

SW生は学科自由科目

科 目 名

宗教社会学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	清 水 夏 樹

【講義概要・学習目標】

日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に占めるそのウェイトと機能を考える。明治以降の新宗教活動の一端をみ、戦後社会の病理もしくは“影の部分”を理解する手がかりとしたい。宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極の課題（テーマ）とさえいえる面をもつ。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

【講義計画】

前期

聖と俗、未開社会の宗教儀礼、祭りの構造と習俗基盤、修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態、宗教の世俗化とその逆現象、同じくその脱俗化（再聖化）とdemonization、カリスマの発祥と変容。

後期

神仏習合にみる日本固有信仰の特徴、その歴史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教々団、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、現代社会のひずみと宗教ブーム、同じくsubculturalな動向にみる価値フレームとの関連。

【教科書】

未定

【参考文献】

講義中に随時紹介する。

科 目 名			
生涯学習概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	尾 谷 雅 彦
02	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方そして生涯学習の重要な支援領域である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点を取りあげる。

【講義計画】

1. 生涯学習とは
2. 生涯学習と社会教育
3. 生涯学習、社会教育の施策
4. 社会教育の意義と社会教育行政
5. 社会教育の内容と方法①
6. 社会教育の内容と方法②
7. 社会教育の歴史
8. 社会教育の指導者
9. 社会教育の施設
10. 学習情報の提供
11. 学習相談の意義
12. 昨今の社会教育行政の課題①
13. 昨今の社会教育行政の課題②
14. 昨今の社会教育行政の課題③
15. 試験

【成績評価の方法】

出席を重視。100点満点で配点は2／3以上の出席（確認の為の当日レポート提出）で50点、試験50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【教科書】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

- 『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会
『学習プログラムの技法』岡本包治他 実務教育出版

科 目 名			
障害者福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は、学生の皆さんに、障害のある人が地域社会の中で生活するということが当たり前のことであるということを理解してもらうことと、そのためにはどのような支援が必要であるのかということを考えてもらうことである。教科書の内容を学習するだけでなく、ビデオ教材を用いたり、障害のある人の話を聞いたりするなど、障害のある人がおかれている今の状況を理解できるような講義を行う。

【講義計画】

- ・障害者福祉の考え方
- ・障害の概念と障害者の実態
- ・障害者福祉の史的展開
- ・障害者施策の体系
- ・障害者福祉のサービス体系
- ・障害者福祉の関連分野
- ・障害者運動と当事者参加
- ・障害者に対する相談援助活動

【成績評価の方法】

出席、レポート、テスト等により総合的に評価する。

【教科書】

『社会福祉士養成講座 (3) 障害者福祉論』中央法規出版

【参考文献】

授業時に提示する

科 目 名

商業科教育法

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	沼 田 吉 昭

【講義概要・学習目標】

高等学校商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員（1種）免許取得」のための必修科目である。商業高校で授業を行うために必要な知識・技術の習得を目指す。

現在の商業教育は、学習指導要領にある科目以外にも学校設定科目が多くあり、学習内容は以前に比べ広範囲に渡っている。各商業高校はそれぞれ独自のカリキュラムで授業を行っている。各商業高校が実施しているカリキュラムの内容や、コース制・総合選択性・総合学科制などについて講義し、資格取得として商業高校で受験している各種資格試験・検定の紹介もする。その後、商業科の各科目について具体的に解説する。商業科の科目については演習を通じて知識・技術を習得する。また商業科教員としての自覚と責任・教育者としての人間力を磨くことも目標とする。講義では、年間指導計画、学習指導案の作成、学習指導法、教材研究、授業で使用する資料・問題プリントの作成、模擬授業を行い実践的な指導をする。

【講義計画】

1. 商業教育の意義と目的
2. 商業教育の変遷
3. 現在の高等学校の商業教育
4. 各商業高校のカリキュラム
5. 商業科科目と学校設定科目
6. 学習指導法（模擬授業の展開）
7. 学習指導計画と教育評価
8. 教員の研修制度
9. 職業資格制度と検定試験制度
10. 今後の商業教育の展望等

【成績評価の方法】

主として、出席・課題の提出を重視し、厳しく評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする

【教科書】

松原勇（編者）『商業科教育法』（ぎょうせい）

【参考文献】

『高等学校学習指導要領解説（商業編）』

科 目 名

商業簿記

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	全 在 紋 中 在 紋
02	通期	4単位	全 在 紋
03	通期	4単位	中 村 恒 彦
04	通期	4単位	中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

■学習目標 平成18年度日商簿記検定試験3級合格

（本講義では、日本商工会議所簿記検定3級を取得することを目的とします）

■講義概要 今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

商業簿記3級は、個人商店を前提として複式簿記による記帳（仕訳・勘定記入）の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書（損益計算書、貸借対照表）の作成も重要な学習内容です。

【講義計画】

【講義計画】

第115回 日商簿記検定試験3級対策：4－6月

第116回 日商簿記検定試験3級対策：6－11月

第117回 日商簿記検定試験3級対策：11－2月

【講義内容】

- ①簿記の目的・取引・仕訳
- ②勘定口座への記入方法・試算表・商品売買の記帳方法・引取運賃及び発送費の記帳方法・手付金の記帳方法
- ③現金及び預金の記帳方法・手形の記帳方法（決済まで）
- ④手形の記帳方法（裏書譲渡から）・その他の勘定の記帳方法（有価証券・債権債務・収益・費用）
- ⑤その他の勘定の記帳方法（訂正仕訳）・主要簿及び補助簿（小口現金出納帳まで）
- ⑥主要簿及び補助簿（受取手形記入帳から）・伝票
- ⑦決算・決算整理（売上原価の計算）・英米式決算法
- ⑧精算表・その他の決算整理（貸倒れ・減価償却）
- ⑨その他の決算整理（有形固定資産の売却・繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品）
- ⑩その他の決算整理（現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金）
- ⑪直前対策総まとめ講義（予定）
- ⑫直前対策Ⅰ
- ⑬直前対策Ⅱ
- ⑭直前対策Ⅲ
- ⑮直前対策Ⅳ
- ⑯公開模擬試験
- ⑰検定問題の解説

【成績評価の方法】

単位修得条件：日商簿記検定試験3級合格（合格点70点）

日本商工会議所の簿記検定は、年三回（6月・11月・2月）に実施されています。

【教科書】

大原簿記学校オリジナル教材

①ALFA3級商業簿記テキスト

②ALFA3級商業簿記ドリル

③ALFA3級商業簿記アンサー

※第一回目から講義をおこないますので、必ずテキストを生協にて購入して受講してください。

【参考文献】

必要があれば、適宜指示します。

【備考】

・07生対象

- ・重要な連絡は、講義内および掲示板にて行いますので、どうしても欠席しなければならない場合は掲示板をよくみてください。
- ・また、上記連絡は、学校のメールアドレスにも配信しますので、携帯メールへの転送設定を怠らないようにしてください。

科 目 名			
商業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4単位	坂 手 恭 介
06	春学期集中	4単位	金 光 明 雄
07	秋学期集中	4単位	坂 手 恭 介
08	秋学期集中	4単位	金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

簿記は、企業の財務状態や経営状況を知るうえで不可欠な知識であり、会計学を理解するための基礎に相当します。例えば、企業が倒産するかどうかやどれほどの借金を抱えているかについては財務諸表と呼ばれる書類に記載されていますが、これは簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。

この講義では、ほとんどの企業で用いられている複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。ここで複式簿記とは、企業が行う商品売買などの取引を二面的に把握・記録するための体系的な技術を指します。

具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、(1) 複式簿記の基礎概念、(2) 諸取引の会計処理、(3) 決算と財務諸表、の順に講義を進めていきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

この講義を終えることによって、日商簿記検定3級程度の簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を受けるための基礎が形成されます。

【講義計画】

- 複式簿記の基礎
 - 簿記の基礎概念
 - 資産・負債・資本と貸借対照表
 - 収益・費用と損益計算書
 - 簿記上の取引
 - 仕訳と勘定記入
 - 仕訳帳と総勘定元帳
 - 試算表の作成 (その1)
 - 元帳の縮切りと財務諸表の作成
 - 精算表の作成 (その1)
- 取引の処理
 - 現金と預金
 - 商品売買
 - 売掛金・買掛金
 - その他の債権・債務
 - 手形 (その1)
 - 手形 (その2)
 - 有価証券
 - 固定資産の取得・売却と減価償却
 - 資本金
 - 収益と費用の見越し・繰延べ
 - 試算表の作成 (その2)
 - 決算整理手続
 - 精算表の作成 (その2)

【成績評価の方法】

期末試験 (100点満点) で評価します。

【教科書】

加古宜士・渡部裕亘 (編著) 『新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社、2006年。

【参考文献】

加古宜士・渡部裕亘 (編著) 『新検定 簿記講義 3級』中央経済社、2006年。

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋 (共著) 『現代簿記論』中央経済社、1992年。

その他の参考文献については、必要に応じて授業の中で指示します。

科 目 名			
証券論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 尾 順 介

【講義概要・学習目標】

近年証券市場は急速に身近なものとなっている。このことはライブドアや村上ファンドの事件だけでなく、皆さんが上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれない。大企業だけでなくベンチャー起業家にとっても、証券市場は樹木の根のような不可欠な要素（資金調達手段）である。また、従業員も社員持ち株制度やストックオプション制度で、株式を持つことが多くなった。さらに、インターネット取引は、一般の人々の株式投資を身近なものにした。他方、フィナンシャルプランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要不可欠である。本講義は、株式市場を中心に、証券市場の基本的な制度やルール、さらにその実態の理解を目的とする。証券市場を「ずるがしこく儲ける所」と理解している人も多いが、実は「ルールのかたまり」であり、ルールを順守することで成り立っていることを理解してほしいと思っている。講義内容は、株式や債券の基本からデリバティブまでを対象として講義する予定である。

【講義計画】

1. 株式の基本的知識
2. 債券の基本的知識
3. 株式発行市場
4. 取引所における取引システム
5. 店頭市場における取引システム
6. 新しい取引システム
7. 株価と投資尺度
8. デリバティブ取引
9. 証券化

【成績評価の方法】

期末テストで評価する。ただし、毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加算する。また、課題提出にも加算する。なお、出席点は一切考慮しない。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2004年版』日本証券経済研究所
証券広報センター編『証券市場2005』中央経済社
東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社
川村雄介著『最新証券市場』財経詳報社

【備考】

<02~06生>
共通自由科目として、B生対象外
B生は学科教育科目

科 目 名			
商法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

経済社会における中心的な法主体としての会社、とりわけ株式会社に関する法規整の理解を目指す。
会社の設立、その機関構成と運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度を一貫して学修することは、経済社会に身を置くものにとって有益であり、また必要であると考え。経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻繁に法改正が行われており、2005年に商法典から分離した形で新会社法が成立した（2006年5月施行）。膨大な会社法本体の条文に加えて、会社法施行規則、会社計算規則を擁するすべてを扱うことは困難である。したがって、授業では、技術的な部分は除外し、会社法の根幹をなす制度の理解を中心に据えることになる。とはいえ、必要に応じて金融商品取引法の検討は行っていくことにする。
民法は履修済み（あるいは履修中）であることが望ましい。

【講義計画】

- 概ね、次に掲げる講義計画に沿って進めるが、その時々話題となっている具体的な事例や会社関係の事件を適宜取り入れて、できるだけ新しい素材を使った授業をしたい。
1. 会社とは
 2. 株式会社の設立手続、機関設計
 3. 株式、新株予約権
 4. 株式取引の仕組みと法規制
 5. 株式会社の組織と運営
 6. 株式会社の計算
 7. 会社の解散及び清算
 8. 企業再編
 合併、事業譲渡、会社分割、株式交換、株式移転
 9. 持分会社

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。

【教科書】

酒巻俊雄・尾崎安央編「新会社法」（青林書院・2006）
六法（出版社は問わないが、昨年度のものでも使えません。毎回必ず、最新版を持参すること）

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

この講義では、商法のうち会社法について講述する。会社法といえど会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちだが、実際には会社法の守備範囲は限定的なものである。具体的には授業計画に記した通りであり、学生諸君にとってはいかにも疎遠な内容であろう。「会社勤め」をする人にとっても、ほとんど役に立ちそうにもない話ばかりである。さらに、他の法律と比較しても煩瑣で技術的な規定が極めて多いのが、会社法の特徴といえる。こうした会社法の特徴をよく認識した上で受講するようにしてもらいたい。

毎授業時に『六法』を携帯すること。私語は厳禁。その他受講時の留意事項について、最初の授業時に説明する。

【講義計画】

- I 会社法総論
 - 1) 会社法の歴史と構成
 - 2) 会社の法的性質
 - 3) 会社の種類
 - 4) 法人格に関する問題
- II 株式会社法
 - 1) 設立〔設立手続、定款、仮払込等〕
 - 2) 株式〔株主の権利義務、種類株式、株式譲渡、自己株式〕
 - 3) 株主総会〔総会の権限、総会の招集・議事、総会の決議〕
 - 4) 業務執行・監査機関〔取締役、取締役・会社の関係、取締役会、会計参与・監査役・会計監査人、委員会設置会社、役員等の責任〕
 - 5) 資金調達等〔株式の発行、新株予約権、社債〕
 - 6) 計算〔計算書類、資本金・準備金、配当〕
 - 7) 基礎的変更〔合併・営業譲渡、分割等〕
- III 持分会社法

【成績評価の方法】

正誤文選択等による短答式の学期末テストを予定している。

【教科書】

菅野和夫ほか編『ポケット六法 平成20年版』（有斐閣）
 ＊他社の『六法』でも可。
 ＊平成20年版が出版される10月中旬までに、最初の授業時に指示する。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	牛 丸 與志夫

【講義概要・学習目標】

わが国において、手形・小切手が企業の支払い手段として重要な役割を果たしている。そこで、講義では手形および小切手の法規制の基本的な知識と応用力の取得を目標とする。

【講義計画】

講義は、まず、国内取引で頻繁に使われている約束手形について行い、続いて、為替手形および小切手について行う。以下の順番で行う。

- 手形・小切手の意義と機能
- 手形の特性
- 約束手形の振出
- 約束手形の移転
- 手形所持人の保護
- 約束手形の支払
- 為替手形の特色
- 小切手の特色
- 手形・小切手に共通する制度

【成績評価の方法】

期末試験で評価する。

【教科書】

木村秀一著『判例手形小切手法』（中央経済社発行）

科 目 名

商法Ⅲ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

主に商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。もともと本講義の対象とすべき範囲は広がっており、また直面する問題も多く、法規制の進展は著しい。したがって、そのような情報も、できるだけ折り込みたいと考えている。

基幹科目としての民法を学んだ者が、この分野も学ぶことで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその仕組みを理解することを目標とする。したがって、民法に関し総則の部分は履修済みであることが望ましく、契約の部分が履修済み（履修中）であれば、とりわけ商行為法の理解に有益です。

【講義計画】

概ね、以下のような順で行う。

1. 商法とは 商法の特徴
2. 商法の適用範囲 商人と商行為
3. 商号
4. 商業登記
5. 組織と人 商業使用人
6. 商業帳簿
7. 民法と商法の交錯
商事売買に関する法制度
交互計算
消費者取引等
8. 様々な営業形態
9. 各種保険
10. 普通取引約款
11. 金融取引取引
12. 資本市場取引

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。

【教科書】

最新の六法（必ず毎回持参すること）。テキストは未定。開講時までには知らせます。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名

情報科教育法

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

ますます進展する情報化社会にあって、高等学校における普通教科・専門教科「情報」においては、

- ①情報活用の実践力
- ②科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

を系統的・体系的に習得・育成させることが求められている。

この授業においては、その教育目標を達成するために、教科構造、ねらい、内容、指導法について系統的・体系的に理解するとともに、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に習得する。授業の形態は、講義、演習、模擬授業を組み合わせで展開する。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようにしていることを前提とする。

【講義計画】

- ・ IT革命の現状と展望
- ・ 初等中等教育における「情報」教育の役割と課題
- ・ 「情報」の教科構造
- ・ 学習指導要領における普通教科「情報」の目標と内容
- ・ 学習指導要領における専門教科「情報」の目標と内容
- ・ 「情報」の授業の実際
- ・ 年間指導計画の作成
- ・ 単元指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・ 教材研究の実際
- ・ 学習指導案の作成
- ・ 模擬授業及び評価と改善
- ・ まとめ

【成績評価の方法】

講義への参加、課題への取り組み、期末課題、模擬講義等を総合して評価する。

【教科書】

高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版

【参考文献】

情報科教育法 岡本敏雄 丸善
 情報科教育法 大岩元 オーム社
 情報科教育法 河村一樹 彰国社
 情報科教育法 本村猛能 学術図書出版

その他講義の進行状況に応じて指示する。

科 目 名			
情報化組織論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	牧 野 丹奈子

【講義概要・学習目標】

情報化社会の今日、企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。

では、どのような組織ならば、新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。

このような問題に対して、企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組むことが、本講義の学習目標である。

つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような組織が成功するのか”を、システム論や事例研究を用いながら学習することになる。

毎時間、「聴く」だけでなく、「考える」講義を目指したい。

【講義計画】

1. 情報化社会で企業に必要な能力とは何か(自己革新する経営)
2. 情報化社会で個人に必要な能力とは何か(個人自律化)
3. 組織をどのようにとらえるか(組織の二重構造)
4. どのような職場がよい職場か(「自律性」と「関係性」)
5. 情報と物質とのちがひ

【成績評価の方法】

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

【教科書】

『経営の自己組織化論—装置と行為空間』牧野丹奈子 日本評論社

【参考文献】

その都度、参考文献を紹介する。

科 目 名			
情報機器論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。そのために、単純な一方通行の講義ではなく、主体的に自分の頭で考えることを要求する講義運営を目指す。

具体的な計画は授業計画欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。また、図書館やICTに関する基礎的な知識は保持していると言う前提で講義を行う。

なお、講義の第二回目に最初の課題提出を要求する。詳細は教務課の掲示板に掲示するので見落とさないこと。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

【講義計画】

- ・本講義で要求するレポートのレベルについて
- ・情報を機械で扱うとは
- ・デジタルとアナログ
- ・図書館学の五法則と情報機器
- ・図書館で使われる情報機器
- ・情報処理システムの基礎知識
- ・パソコンの基礎知識
- ・視聴覚機器とプレゼンテーション
- ・プロと付き合うプロとして
- ・情報化時代の暗号化技術
- ・電子資料と保存

【成績評価の方法】

学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。

【参考文献】

進行状況に応じて指示する。

尚、講義に必帯とはしないが、

志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 第一法規に目を通すことは要求する。

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	都 築 泉

【講義概要・学習目標】

図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンデマンドのデータベースの提供は、現在、極めて重要なものとなっている。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー（インフォメーション・スペシャリスト）と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められている。

ここでは、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験（(社)情報科学技術協会が行う）を目標において、実践を交えながら学習する。

当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。

1. E-mailアドレスを取得し、メールの送受信ができるようにしておくこと（学内LANのそれでよい；携帯メールは対象外）。
2. パソコンキーボードの操作・入力ができること。

【講義計画】

1. ガイダンス 情報検索基礎能力試験の概要
2. 情報の生産と流通、情報管理
3. 情報検索の基本1-主題分析、一次情報と二次情報
4. 情報検索の基本2-検索方式の種類、検索式の作成
5. 情報検索の実際1-新聞・書籍・雑誌の記事、企業情報
6. 情報検索の実際2-科学技術情報
7. 情報検索の実際3-特許・商標
8. 情報検索の実際4-人物情報、生活情報、趣味、その他
9. データベースの歴史、種類等
10. インターネットの利用と商用データベース
11. 情報利用の問題点、セキュリティ、法制度
12. 海外のオンライン情報検索システム
13. 調査結果のまとめ方、ソフトウェアの利用、情報検索担当者の役割
14. まとめ

【成績評価の方法】

テスト 50%
平常点（レポートを含む） 50%

【教科書】

情報検索の基礎知識 新訂版（情報科学技術協会）2,000円
発行：2006年7月31日
ISBN：4-88951-044-3

【参考文献】

1. 「情報活用術：情報検索 情報処理の染々実行」（学芸図書）2300円 編著者：志保田 務・平井尊士・中崎修一
2. 「最新オンライン情報源活用法」（日外アソシエーツ）2000円

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデマンドのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてはここで学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索機器能力試験をも目指す。

各分野の専門家によるインテグレーション授業として、INFOSTA（情報科学技術協会）の中心メンバーの指導を受ける。第2回目以降の授業では、情報センターのコンピュータ演習室を使用する。

この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと

1. パソコンキーボードの操作、入力ができる。
2. E-mailの受信ができる。

【講義計画】

1. 情報検索演習概説
2. 情報処理基本技術
3. 検索式（コマンド）
4. 一次資料と二次資料
5. 図書情報、雑誌・新聞記事の検索
6. 企業、人物情報とその検索1（日本のDB）
7. 企業、人物情報とその検索2（外国のDB）
8. 医学や苦学情報とその検索
9. 特許情報とその検索1
10. 同2
11. 生活情報とその検索
12. 情報検索と英語
13. サーチャー試験案内1
14. 同2
15. まとめ

【成績評価の方法】

テスト50%
課題 40%
出席 10%

【教科書】

『情報検索の基礎知識』（最新版）情報科学技術協会 ￥2000

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2単位	川 崎 千 加

【講義概要・学習目標】

私たちが情報を検索するときには、何らかの情報ニーズを持ち、様々なキーワードを用いて検索を行う。日常多くの人がインターネットを通じて、たいいてい情報を得たつもりになっている。しかし、司書としての情報検索は、多様なメディアの特性を知り、それぞれのテーマに合った適切なキーワードを設定し、より早く、より信頼性の高い情報を提供することが求められる。この講義では、桃山学院大学図書館が提供しているデータベースやCD-ROMなどの情報源についてその検索方法と特性を知る。また、このようなデータベースを持たない図書館も多く存在することから、インターネット上の有効に活用できるデータベースについて、その選択、利用法を実際の検索を通じて学ぶ。可能な限り印刷メディアも活用し、求める情報への多様なアプローチの仕方を体験する。

【講義計画】

1. 一次情報と二次情報
2. 書誌検索（国内）主題分析
3. 書誌検索（海外）シソーラス
4. 書誌検索国内（主題分析）
5. 雑誌記事検索
6. 新聞ニュース検索
7. 表層Web検索（www、サーチエンジン）検索応用
8. 未確定情報検索（情報検索の流れ）
9. 主題検索：地名・地図検索
10. 主題検索：人物・人名検索
11. 主題検索：統計情報検索
12. 主題検索：法律情報・政治経済検索
13. 主題検索：生活情報検索

【成績評価の方法】

実習姿勢30%、毎週の課題提出40%、小テスト30%の配分で評価する。

【教科書】

特に指定しない

【参考文献】

- 『大学生と「情報の活用」：情報探索入門、増補版』川崎良孝編集、京都大学図書館情報学研究会/日本図書館協会（発売）、2001
- 『デジタル情報資源の検索（KSPシリーズ；3）』高銀裕樹著、京都：京都大学図書館情報学研究会/日本図書館協会（発売）、2005.10
- 『情報検索の基礎知識』新訂版。原田智子・岸田和明・小山憲司著。情報科学技術協会。2006.7

科 目 名			
情報検索論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	平 井 尊 士

【講義概要・学習目標】

現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスクのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてはここで学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索機器能力試験をも目指す。

【講義計画】

- 1 情報検索演習概説
- 2 情報処理基本技術
- 3 検索式（コマンド）
- 4 一次資料と二次資料
- 5 図書情報、雑誌・新聞記事の検索
- 6 企業、人物情報とその検索1（日本のDB）
- 7 企業、人物情報とその検索2（外国のDB）
- 8 医学や苦学情報とその検索
- 9 特許情報とその検索1
- 10 同1
- 11 生活情報とその検索
- 12 情報検索と英語
- 13 サーチャー試験案内1
- 14 同2
- 15 まとめ

【成績評価の方法】

レポートなど 70%
平常点 30%

【教科書】

必要に応じて適宜用意する

【参考文献】

情報検索の基礎知識/情報科学技術協会

【備考】

<02~07生>
共通自由科目として、B生対象外
B生は学科教育科目

科 目 名

情報サービス演習

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	谷 本 達 哉

【講義概要・学習目標】

図書館では、人々が必要とする様々な情報要求に対して情報サービス（レファレンスサービス）を提供しています。この科目では、講義科目「情報サービス概説」で学んだ知識に基づき、個々の利用者から寄せられるそれぞれの情報ニーズ（質問）に対して、図書館の情報資源（レファレンスブック）を活用した情報提供（回答）の手法について習得します。演習形式の授業を取り入れて、図書館の情報サービス（レファレンスサービス）を実践的に捉えることを目標とします。

【講義計画】

図書館の情報サービス（レファレンスサービス）について、次のようなテーマを中心にして学びます。

- 情報サービス（レファレンスサービス）入門
- 質問と情報源
- 文字・言語に関する質問
- 事物に関する質問
- 歴史・時事に関する質問
- 地理・地名に関する質問
- 人物・団体に関する質問
- 著作・図書に関する質問
- 逐次刊行物に関する質問
- レファレンスブックの解題

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題・演習、出席や受講態度を重視します。

また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

西田文男監修『情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第2版』学芸図書、2005
（ISBN 4-7616-0382-8）

【参考文献】

適宜、必要なものについて授業の中で紹介します。

科 目 名

情報サービス概説

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について統合的に解説する。

【講義計画】

1. 情報サービス一般の広がりとは図書館が行う情報サービス位置づけ
2. 図書館における情報サービスの意義と種類（レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス等）
3. 情報及び情報検索行動についての基本的理解
4. レファレンスプロセス（レファレンス質問の受付から回答まで、マニュアル検索とコンピュータ検索を含む）
5. 情報検索サービスの方法、プロセス・評価
6. 主要な参考図書、データベースの解説と評価
7. 参考図書及びその他の情報源の組織（二次資料の作成にも触れる）
8. 各種情報源の特質利用法

【成績評価の方法】

定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。

【教科書】

西田文男監修、志保田務・平井尊士編著「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」第2版 学芸図書 2005

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
情報システム論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	芦 田 昌 也

【講義概要・学習目標】

社会の基盤施設や経済活動における必須の道具から、個人での情報活用のための文房具に至るまで、情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを、人・情報・コミュニケーション・ネットワーク・社会などとの関連で捉えていきたい。

前半部では、情報システムの一般的な基礎知識と社会での活用形態や開発方法などに関して講義する。また、情報システムの利用者として身につけるべき情報セキュリティや倫理についても解説する。後半部では、情報システムの観点から、人と情報、コミュニケーションとネットワークなどについて理解を深め、情報システムと社会との関わりを探る。

【講義計画】

1. システムとは
2. 情報システムとは
3. 情報システムの利用形態
4. 情報システムの実例
5. 情報システムの変遷
6. 情報システム技術
7. 情報システムの開発形態
8. 情報システム技術の将来展望
9. 情報セキュリティ
10. 情報システムと倫理
11. 情報と人間の関わり
12. 情報とネットワーク
13. 情報ネットワークとコミュニケーション
14. 情報システムとインターネット
15. 情報社会におけるコミュニケーション

【成績評価の方法】

試験の成績により評価する。

【教科書】

川合 慧 監修・駒谷昇一 編著「情報と社会」オーム社

【参考文献】

神沼 靖子 編著「情報システム基礎」オーム社
川合 慧 監修・河村一樹 編著「情報とコンピューティング」オーム社

科 目 名			
情報と職業			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	小 林 利 臣

【講義概要・学習目標】

教科「情報」を教えることを考えている人、および情報に関わる職業につくことを考えている人を対象に

情報システムとはなにか

情報システムと情報化社会のかかわり

企業活動におけるビジネスモデルとそれを支える情報システム
情報関連分野における職業観（法律、資格、倫理なども含む）
を理解してもらうことを目標とする。

情報システムの進展によって、社会・ビジネスの「あり方・ありよう」は大きく変化している。変化する情報化社会で生きていくためには、変化の本質、今後どう変化していくかを理解できなければならない。

情報に関わる職業につき、仕事していくには、単に「情報に関する知識」を身に付けるだけでは不十分であり、「情報に関する考え方」を身に付ける必要がある。本講義では「考える」こと身に付けたいと考える人向けに構成している。

【講義計画】

第1部（情報システムの進展による社会の変化）では、コンピュータ・情報システムの進展、およびインターネットの出現を背景に、「社会がどう変化し」、「情報に関わる職業の雇用状況がどう変化しつつあるのか」を学ぶ。

1. 情報システムとは
2. 情報システムの進展
3. 社会の変化
4. 雇用の変化

第2部（情報ビジネスと職業）では、さらに詳しく企業における情報システムの活用、およびビジネスモデルの変化を調べ、「情報に関わる職業にはどんな職種があるのか」、一般企業に就職した場合「情報システム利用者として情報とどういう関わりをするのか」を学ぶ。

5. 企業における情報システムの活用
6. 企業情報システムの新しい方向
7. 新しいビジネスモデルとビジネスモデルの研究
8. 情報関連の職業（新しい職種の出現、雇用形態の多様化、企業研究）

第3部（職業としての情報教育）では、教科「情報」を教えることを考えている人のために、教科「情報」の概要・授業計画を調べ、「教科「情報」教育者としての心構え」を学ぶ。

9. 教科「情報」の概要
10. 教育者としての心構え

第4部（情報化社会と個人）では、企業における会社組織と個人の関係、および情報化社会における法制度などを学び、「情報関連分野における職業観」を涵養する。

11. 企業における会社と組織と個人の関係
12. 情報化社会での生き甲斐
13. 就職活動と情報
14. 法律と職業倫理
15. これからの情報化社会

【成績評価の方法】

講義時の課題・レポート、および期末試験で、評価する。

【教科書】

特になし。毎回レジユメを配布する。

【参考文献】

近藤勲編著『情報と職業』丸善（2002）
澁澤健太郎他著『情報教育のための基礎知識』NTT出版（2003）

科 目 名			
職業指導			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	<春>植田 勝美 <秋>柴田 正己

【講義概要・学習目標】

職業を選ぶということは、自分の人生を選ぶことでもある。近年、学校を卒業しても進学をしない、就職もしない。また、離職して次の就職先がみつからなかったりして、アルバイトとして働いている若者がふえている。中学校・高等学校の教育や進路指導のあり方にもさまざまな要因があるのではないだろうか。この講義では、職業指導の現状や問題点をあげて、学校における適切な進路指導について考察する。また、職業指導を行うための基礎的な知識・技術の修得を目標とする。

【講義計画】

◆春学期

1. 職業の意義と選択
2. 職業指導と進路指導
3. 学校現場における進路指導
4. 進路指導の課題と展望

◆秋学期

1. 産業社会の職業構造
2. 個人の人生選択と進路指導
3. 様々な資格取得と職業指導
4. 近代建築物に見られる「職人」の技とその活用

【成績評価の方法】

通年の授業ではあるが、春学期・秋学期の担当者が異なるので注意する。
春学期及び秋学期それぞれの講義時のレポート、出席状況、などで総合的に評価する。

【教科書】

◆春学期・秋学期

特になし。必要に応じて講義時に資料を配布する。

【参考文献】

◆春学期

仙崎武他編「入門 進路指導・相談」福村出版

◆秋学期

柴田正己他共著「新しさと旧さが競う街」桃山学院大学総合研究所（2004年）

科 目 名			
資料特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

行政資料、郷土資料、地図、およびデジタル資料などについて、その特徴、収集、利用等を解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

【講義計画】

1. はじめに
2. 行政資料について
3. 情報公開制度について
4. 郷土資料について
5. 地図について
6. デジタル資料について

【成績評価の方法】

出席状況、および講師それぞれの評価を総合して評価する。各講師の評価は、レポート、または授業後の小テストによって行われる。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
資料分類法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	吉 田 憲 一

【講義概要・学習目標】

図書館が収集した資料を利用に供するために、利用者の検索の便を考え、一定の方式にしたがって資料を体系的に整理することを「資料組織（化）」という。資料組織法とは、この実践としての資料組織化を、理論化・体系化した分野である。そこでは資料そのものの組織化にとどまらず、索引作成、データベース作成などにより、情報を組織づけ体系化することが重要である。この技術は大別すると、資料を識別同定のために記述し、多様なアクセスポイントから検索するための技術である目録法と、特に資料の内容（主題）から検索（組織化）するための技術である分類法・件名法の2つからなる。

すでに図書館では資料や情報の検索に、日常的にコンピュータを用いており、コンピュータ利用を前提とした内容となっている。この科目では、その中心となる分類理論を基本的に考えてもらうとともに、具体的には以下のような内容を扱う。

【講義計画】

1. 資料分類法とは
2. 主題組織化の意義と情報検索・情報利用
3. 主題検索法：分類法、件名法
4. 分類理論入門
5. 分類表の構成原理
6. 各種の分類法
7. NDC概説

【成績評価の方法】

出席状況と講義の最後に行うテスト結果で評価する。

【教科書】

・木原通夫ほか著 『資料組織法』最新版 第一法規

【参考文献】

・参考文献類は授業時に指定する。

科 目 名			
資料分類法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	吉 田 憲 一

【講義概要・学習目標】

後期の演習（分類法）では、資料の内容（主題）にかかわる検索のための主題組織化の技術、つまり主題索引法（分類法および件名法）について、今日、日本の大多数の図書館で使用されている「日本十進分類法」（NDC）および「基本件名標目表」（BSH）を用いて授業を進める。毎回、演習課題を課して、それへの解答作成を通じて、主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。

【講義計画】

1. 主題検索法演習概説
2. 分類法演習
 - ①分類作業 ②一般分類規程 ③固有分類規程
 - ④各類 演習 ⑤別置法・図書記号法
3. 件名法演習
 - ①件名作業 ②件名規程

【成績評価の方法】

授業時に行う演習問題の解答レポートと、テストで総合評価する。演習科目なので、出席状況は重視する。

【教科書】

吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会 2007（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ；10）

【参考文献】

日本図書館協会編刊 『日本十進分類法 新訂9版』
日本図書館協会編刊 『基本件名標目表 第4版』

科 目 名			
資料目録法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	北 克 一

【講義概要・学習目標】

図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化について、その意義の理解を進め目録法等の基礎知識を獲得すると共に、ネットワーク時代の資料・情報の最新状況の理解を目的とする。

【講義計画】

1. 書誌コントロールと資料組織化の目的・意義。歴史
2. 目録の機能、目録規則の構成原理、その適用
3. 典拠コントロールの目的と機能
4. 書誌レコードと典拠ファイル
5. 書誌ユーティリティ、総合目録、ILLへの展開
6. 電子ジャーナル、電子図書館、メタデータ
7. まとめ

【成績評価の方法】

試験

【教科書】

木原道夫[ほか]著『資料組織法』（最新版）第一法規出版

【参考文献】

北克一著『資料組織演習 改訂新版』M. B. A
 国立国会図書館編『書誌コントロールの課題』日本図書館協会発行

【備考】

参考文献のURL等を指示することがあるので、検索エンジンの使い方をマスターしておくことが望ましい。

科 目 名			
資料目録法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	北 克 一

【講義概要・学習目標】

資料組織概説（目録）で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。

実際に書誌ユーティリティを使用し、書誌データベース構築を基礎演習する。コンピュータを使用しての演習になるので、キーボード入力、かな漢字変換、マウス操作などを事前に学習しておくことが望ましい。

各人の演習データの保存用に、新規のフロッピー・ディスク（3.5インチ/2HD）を必ず持参のこと。（半年間の演習成果を記録します。）

【講義計画】

1. カード目録作成演習と記述、標目概念の基礎理解
2. 書誌ユーティリティのシステムと参加図書館の役割
3. 書誌レコード、典拠レコードの検索演習
4. 和図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習
5. 洋図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習
6. 和雑誌所蔵登録演習・洋雑誌所蔵登録演習
7. 典拠コントロール演習
8. OPAC構築演習
9. まとめ

【成績評価の方法】

提出演習課題と理解度テストの総合で評価する。

【教科書】

北克一著『資料組織演習 改訂新版2刷』M. B. A. 2003. 7

【参考文献】

根本彰著『文献世界の構造』勁草書房. 1998.

【備考】

積み上げ学習なので、途中欠席をしないこと。

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	4単位	加 納 真 美

【講義概要・学習目標】

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の発達と行動に関する解明を心がけたい。

【講義計画】

前期

Part. 1：私の中の世界

- 1 心と脳
- 2 知覚のプロセス
- 3 動機づけ
- 4 情動・感情
- 5 行動の獲得と変容（学習）
- 6 成長と変化（発達）

Part. 2：わたしらしさ

- 7 パーソナリティ
- 8 自己意識

後期

- 9 心の構造
- 10 心の健康と適応

Part. 3：人と人との結びつき

- 11 対人認知
- 12 コミュニケーション
- 13 対人関係の発展

Part. 4：われわれの社会

- 14 集団と人間（状況の力）
- 15 住みやすい社会を築く（援助行動）
- 16 文化と心（日本人らしさ、比較文化）

【成績評価の方法】

期末の筆記試験、レポート、授業態度等を総合的に評価する。

【教科書】

大坊郁夫編著、『わたしそして われわれ ミレニアムバージョン』、北大路書房、2004年

【参考文献】

- ・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦著、『はじめて出会う心理学』有斐閣アルマ、
- ・ジョージ・バターワース他著 村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
- ・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、2001年
- ・菊池 聡・谷口高士・宮元博章編著、『不思議現象 なぜ信じるのか、こころの科学入門』、北大路書房 1995年

【備考】

私語厳禁、迷惑行為を行なった場合、退出をお願いします。授業途中の自分勝手な退出は、あらかじめ理由を申し出て下さい。

SW生は、対象外

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	通期	4単位	和 知 富士子

【講義概要・学習目標】

1. 心理学の概要を理解させる。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3. 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4. 心理的援助技法の概要について理解させる。
5. 社会福祉士に必要なようについて理解させるよう留意する。

【講義計画】

1. 人間の心理学的理解

- 1) 欲求・動機づけと行動
- 2) 感情・情動
- 3) 感覚・知覚・認知
- 4) 学習・記憶・思考
- 5) 知能・創造性
- 6) 人格
- 7) 適応と適応異常

2. 人間の成長・発達と心理

3. 人間理解のための心理学理論と技法

- 1) 基本理論
 - ①精神分析
 - ②行動分析
- 2) 測定と診断
 - ①発達
 - ②知能
 - ③性格

4. 心理的援助技法の概要

- 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
- 2) 家族心理療法
- 3) 行動療法

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし、欠席、遅刻・早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象にしない

【教科書】

新版 社会福祉士養成講座 10 「心理学」 中央法規

科 目 名

心理学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか。近年テレビや新聞などでよく取り上げられている「犯罪心理学」、「深層心理学」、「臨床心理学」、「カウンセリング」といった類のものがイコール「心理学」である（それら以外は、たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という強固な先入観にとらわれている人が多いのではなかろうか。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。

わたしたちの日常的活動を例に考えてみよう。わたしたちは、周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断する、伝達するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このような人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。そこで、この講義では、近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観しつつ、人間の心のしくみとはたらき、およびその発達と学習について総合的に理解していくことをめざす。

なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

1. はじめに：心理学とは何か？
2. 心理学研究法
3. 感覚と知覚（1）：感覚と知覚のしくみとはたらき
4. 感覚と知覚（2）：見えの世界
5. 記憶（1）：記憶のしくみとはたらき
6. 記憶（2）：日常の記憶、目撃者の証言
7. イメージ（1）：心的イメージの世界
8. イメージ（2）：イメージ・トレーニング
9. 注意と認知
10. 思考と言語（1）：問題を解くこと
11. 思考と言語（2）：「ことば」とコミュニケーション
12. 動機づけと情動
13. 性格（1）：性格の類型と特性
14. 性格（2）：性格テスト

〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

- ・福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
- ・金児曉嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
- ・中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
- ・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- ・梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学—心のはたらきを知る—』（サイエンス社）

【備考】

<02～07生>
SW生対象外

科 目 名

スピリチュアルケア

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

現代社会の新しいケア領域であるスピリチュアルケアについて、その必要性、構造、隣接領域との関係、限界などを理解する。また、その専門職養成に関わる諸問題についても、事例等を通して学ぶ。

【講義計画】

以下のテーマを含む

1. 深層心理学とスピリチュアルケア
2. 社会構成論とスピリチュアルケア
3. 宗教とスピリチュアルケア
4. 日本文化とスピリチュアルケア
5. 医療現場におけるスピリチュアルケア
6. 福祉現場におけるスピリチュアルケア
7. 事故・災害におけるスピリチュアルケア
8. スピリチュアルケア専門職養成

【成績評価の方法】

1. 最低20回の出席
2. 3本のブックレポート
3. 学年末試験

【教科書】

谷山洋三・伊藤高章・窪寺俊之著、関西学院大学キリスト教と文化研究センター編『スピリチュアルケアを語る —ホスピス、ビハラの臨床から』、関西学院大学出版会、2004年8月

【参考文献】

授業で指示する。

【備考】

<02～06生>
共通自由科目として、SW生対象外
SW生は学科教育科目

科 目 名			
スペイン語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	浅 井 るり子

【講義概要・学習目標】

英語に次いで世界で数多い国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。スペイン語の基礎をしっかり学びながら、初歩的な会話表現を口頭で積極的に反復練習し、実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ楽しく進めていく。

【講義計画】

春学期

1. スペイン語の発音
2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念
3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現

秋学期

1. 不規則動詞・補助動詞・代名詞
2. 過去の表現（点過去、線過去）
3. 再帰動詞・さまざまな日常会話表現
4. 未来動詞

【成績評価の方法】

平常点（会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度）と授業中に行う小テスト（筆記または口頭）を年に数回と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

マヌエラ・アルマラス／高野雅司／ピエダー・ガルシア／高松英樹／パロマ・トレナド／二宮哲／エンリケ・アルマラス／柳沼孝一郎 著 朝日出版社『ブラサ・マヨール I (cd 2 枚組) コミュニケーション・スペイン語』-Plaza Mayor I-Español comunicativo-Nueva Edición- (定価2100円+税) 教科書の他に辞書『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社 ほか、または他の辞書でもよい。

【参考文献】

『スペイン語の入門』瓜谷良平 著 白水社
『しっかり学ぶスペイン語』桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科 目 名			
スペイン語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	浅 井 るり子

【講義概要・学習目標】

英語に次いで世界で数多い国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。スペイン語の基礎をしっかり学びながら、初歩的な会話表現を口頭で積極的に反復練習し、実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ楽しく進めていく。

【講義計画】

春学期

1. スペイン語の発音
2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念
3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現

秋学期

1. 不規則動詞・補助動詞・代名詞
2. 過去の表現（点過去、線過去）
3. 再帰動詞・さまざまな日常会話表現
4. 未来動詞

【成績評価の方法】

平常点（会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度）と授業中に行う小テスト（筆記または口頭）を年に数回と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

マヌエラ・アルマラス／高野雅司／ピエダー・ガルシア／高松英樹／パロマ・トレナド／二宮哲／エンリケ・アルマラス／柳沼孝一郎 著 朝日出版社『ブラサ・マヨール I (cd 2 枚組) コミュニケーション・スペイン語』-Plaza Mayor I-Español comunicativo-Nueva Edición- (定価2100円+税) 教科書の他に辞書『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社 ほか、または他の辞書でもよい。

【参考文献】

『スペイン語の入門』瓜谷良平 著 白水社
『しっかり学ぶスペイン語』桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科 目 名

スペイン語Ⅱ a

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	ゴンザレス ダリオ González Darío

【講義概要・学習目標】

(学習目標) 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。

(講義概要) 英語に次いで数多い国々で使用されているスペイン語は近年世界経済の動向、国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、まずコミュニケーションの出来るスペイン語を目指し講義を進める。

本講義では、視聴覚教材を活用することにより、スペイン語の全体的な流れを理解すると同時にヒヤリングの力をつける。又、旅行した時に直面する事柄を考えて学習していく。

学生諸君には、常時、西和和西1冊になった小事典の携帯を必要とする。

【講義計画】

(前期)

- 1・空港にて
- 2・タクシー乗り場
- 3・ホテルのフロント
- 4・銀行での両替
- 5・聖家族教会

(後期)

1. 交通機関 (地下鉄、バス)
- 2・試着と買物
- 3・レストランでの注文
- 4・郵便物の発送
- 5・薬局、病院にて

【成績評価の方法】

小テストと出席状況との総合評価とする。

【教科書】

プリント

【参考文献】

東谷頼人 (著) 『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』 (日本放送出版協会)
宮城昇 (編) 『スペイン語 ミニ辞典』 (白水社)

科 目 名

スペイン語Ⅱ b

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	ゴンザレス ダリオ González Darío

【講義概要・学習目標】

(学習目標) スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばし、コミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

(講義概要) 本講義では、前年次に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和和西1冊になった小辞典の携帯は必要である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。

国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【講義計画】

(前期)

スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。訪問先での対応、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応 (誕生日、クリスマス)。

(後期)

音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。

【成績評価の方法】

小テストと出席状況との総合評価とする。

【教科書】

プリント

【参考文献】

東谷頼人 (著) 『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』 (日本放送出版協会)
宮城昇 (編) 『スペイン語 ミニ辞典』 (白水社)

科 目 名			
生産管理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	信 夫 千佳子

【講義概要・学習目標】

本講義では、現代の生産システムについて、社会科学系の学生にも分かり易く概説する。戦後アメリカから導入された「大量生産システム」や「統計的品質管理」などを説明した上で、トヨタ自動車が発見した「リーン生産システム」、現在、電機・電子業界などに急速に普及した「セル生産システム」について、ソニー、NEC、KOA、前川製作所等の先進的な事例を通して詳説し、「ポスト・リーン（次世代）生産システム」と仕事・生活の未来について学生諸君と議論したい。

本講義は、優れた製品がどのように生み出され管理されているかについて基礎的な知識を修得することが目標である。日本には、自動車、パソコンや携帯電話など、世界的に高い評価を得ている製品を生み出す企業がいくつもある。しかしながら、学生はそれらの生産システムについて直接接する機会は少ないので、講義では、教科書を中心にしながら、ビデオやパワーポイントなどでも事例を適宜紹介する。製造関係はもとより営業・販売、企画・開発、会計などの職種にも必要な経営管理の知識である。

【講義計画】

- 第1～2回生産と生産管理、日本企業の生産システム
- 第3～4回テイラー・システムー標準化ー
- 第5～6回フォード生産システムー大量生産システムー
- 第7～8回統計的品質管理とQCサークルーKAIZENー
- 第9～12回トヨタ生産システムーリーン生産システムー
- 第13～15回CIMーコンピュータ統合生産システム
- 第16～18回経営環境変化とセル生産システムー1990年代以降の製造業界ー
- 第19～21回セル生産システムの事例ーソニー、NEC、KOAなどー
- 第22～24回海外の生産システムーアメリカ、ドイツ、スウェーデン、イタリアなどー
- 第25～28回ポスト・リーン生産システムー自律化と統合化の視点からー
- 第29～30回次世代生産システムと私たちの仕事・生活の未来

【成績評価の方法】

授業中のレポート40点＋試験60点

【教科書】

信夫千佳子著『ポスト・リーン生産システムの探究ー不確定性への企業適応ー』文眞堂。

【参考文献】

随時紹介する。

科 目 名			
政治学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	村 山 高 康

【講義概要・学習目標】

政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は、近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講されたい。後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成過程などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマを取りあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズアップできるような講義を行う。前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を十分に咀嚼することが重要である。

【講義計画】

1. 近代国家の成立と新たな政治原理の創出
2. 近代国家の発展と近代デモクラシーの形成
3. 近代国家における政治制度の発達
4. 近代市民社会と市民政治理論の成立
5. 日本の政治ー近代化の諸問題
6. 国際政治システムの形成と変遷
7. 現代社会における主権国家の変貌
8. 民族紛争・南北問題・環境破壊等への国際政治的アプローチ
9. 現代世界の政治思想の諸潮流
10. 日本の政治ー行政機構と政策決定過程の分析

【成績評価の方法】

論述試験およびレポートによる評価

【教科書】

特定の教科書は使用しない

【参考文献】

講義中に随時指示する

科 目 名

政治学原論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

政治学の理論について、現実政治の例をあげながら、できるだけわかりやすく講義したい。

いままでよりも、政治がよく理解できるようになってもらうことがわたしの目標です。

今年は参議院選挙もあるので、これについても取り上げるつもりです。

【講義計画】

- 1 マキャヴェッリ……政治のリアリスト
 - 2 政治とは何か……職業政治家と政治
 - 3 権力とイデオロギー
 - 4 政党
 - 5 左翼と右翼
 - 6 言葉と信念
 - 7 伝統的国家と近代国家
 - 8 行政、官僚制
 - 9 議会・選挙
 - 10 テロ・クーデター・革命
 - 11 カリスマ的支配・伝統的支配・合法的支配
 - 12 日本の政治（1）
 - 13 日本の政治（2）
 - 14 現代日本の「地下世界」
- （順序には変更があります）

科 目 名

精神医学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	岡 田 章

【講義概要・学習目標】

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
- 3 精神医学の概念について理解させる。
- 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
- 5 代表的な精神障害について理解させる。
- 6 治療の概要について理解させる。
- 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

【講義計画】

- 1 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神医学の成因と分類
- 2 脳および神経の生理・解剖
- 3 精神症状学
 - 1) 精神症状
 - 2) 状態像
 - 3) 単症状（神経心理学的症状）
- 4 精神医学的診断学
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 心理検査と身体的検査
- 5 精神医学的治療学
 - 1) 身体的療法
 - ①薬物療法とその副作用
 - ②電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 6 代表的な精神障害
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
 - 6) 成人の人格および行動の障害
 - 7) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 8) てんかん
 - 9) 児童青年期の精神障害
 - ①児童青年期の精神障害の特徴
 - ②精神遅滞
 - ③心理的発達の障害
 - ④小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
- 7 精神医学と社会
 - 1) 精神科医療の歴史（患者処遇の歴史）
 - 2) 精神医学の歴史
 - 3) 地域精神医学

【成績評価の方法】

前期 レポート

後期 テスト

【教科書】

使用しない

【参考文献】

改訂 精神保健福祉士養成セミナー 精神医学 第1巻 へるす出版

ICD-10 精神および行動の障害 WHO編 医学書院

DSM-IV-TR 精神疾患の分類と手引き APA編 医学書院

精神病 笠原嘉編 岩波書店

現代児童青年精神医学 山崎晃資ら編 永井書店

科 目 名			
精神科リハビリテーション学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
- 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
- 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
- 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

【講義計画】

- 1 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
- 2 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - (1) 病院リハビリテーション施設等
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - (3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - (4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
- 3 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - (1) 病院におけるリハビリテーション
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - (3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
- 4 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
- 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - (1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - (2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - (3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - (4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - (1) 日常生活への適応のための訓練
 - (2) 社会復帰のための相談・助言・指導
- 6 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - (1) 地域ネットワーク
 - (2) ケアマネジメント
 - (3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - (4) 家族会および自助グループ
 - (5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】

適宜、プリントを配布する

【参考文献】

特になし

【備考】

インテグレーション科目

00・01生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修